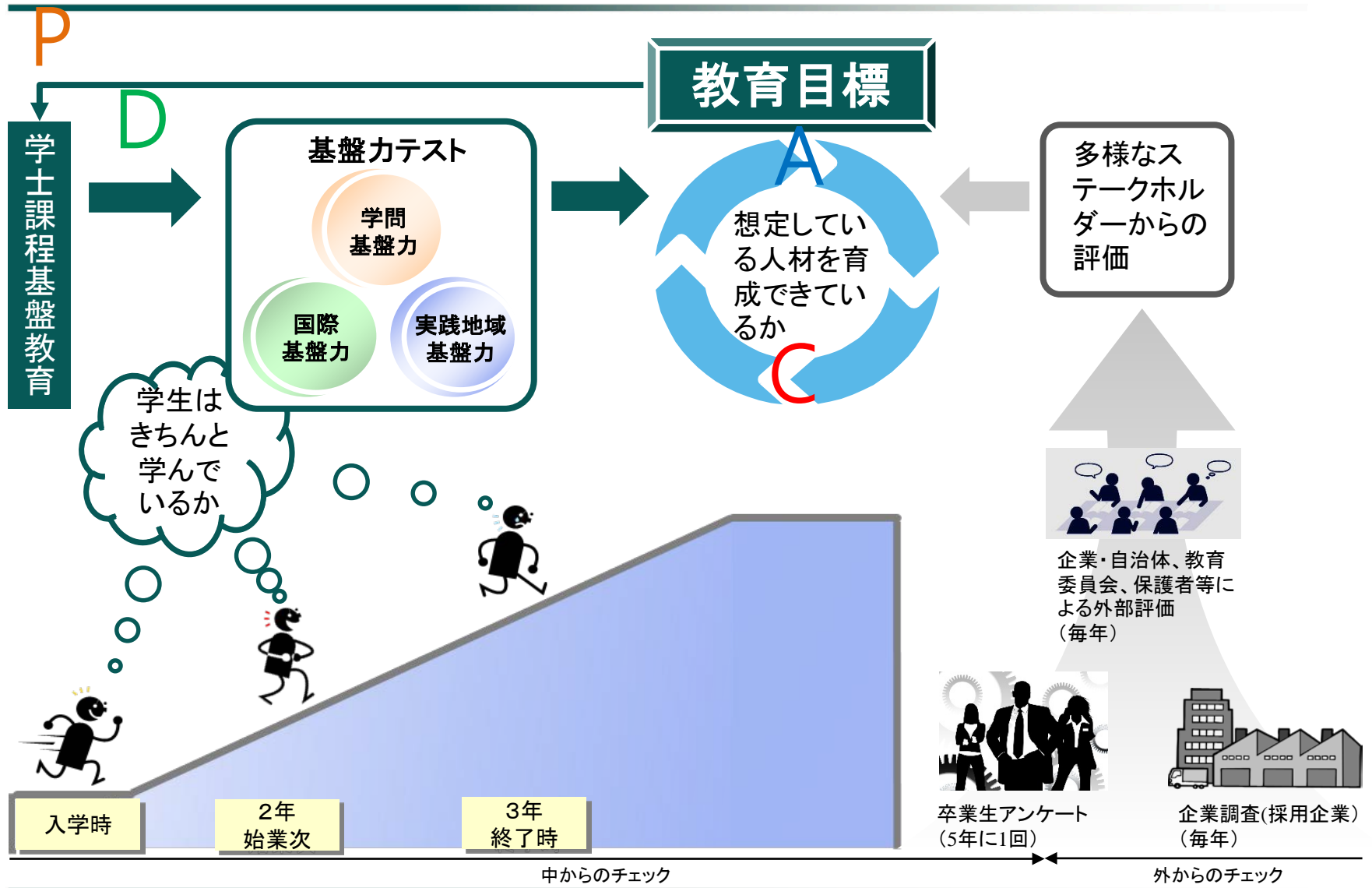


教育の質保証強化に向けた分析結果の活用

浅野 茂(山形大学 学術研究院)

分析結果の活用と質保証強化の全体像



C 教育プログラムと3ポリシーの整理（1）

教育プログラム

教育目標

DP

CP

AP

「学位プログラム」ではなく、教育目標を最小単位とする「教育プログラム」という考え方に準拠

学部	学科	コース	教育プログラム	学位
A学部	A1学科		A1学プログラム	学士(〇〇学)
	A2学科	A2Xコース	〇△学プログラム	学士(〇△学)
		A2Yコース	A2Y学プログラム	学士(〇□学)
B学部	B1学科		B1学プログラム	学士(B1学)
	B2学科		B2学プログラム	学士(B2学)
C学部	C1学科		C1学プログラム	学士(□□学)
			C2学プログラム	
			C3学プログラム	
	

C 教育プログラムと3ポリシーの整理（2）

■ 学士課程（各学部）について

山形大学には人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部、医学部、工学部、農学部の6つの学部があります。全学の学士課程とそれぞれの学部、学科・コース(教育プログラム)の単位で教育目標及び3つのポリシーを策定しております。

学士課程全学と、各学部の教育プログラムにおける教育目標及び3つのポリシーは、下記項目からご覧ください。

● [学士課程全学の教育目標及び3つのポリシーへ](#)

● [各学部の教育プログラムにおける教育目標及び3つのポリシーは、下記一覧表へ](#)

学部	学科	履修コース	教育プログラム	学位
人文社会科学部	人間社会科学科	人間文化コース	人間文化	学士(文学)
		グローバル・スタディーズコース	グローバル・スタディーズ	学士(学術)
		総合法律コース	総合法律	学士(法学)
		地域公共政策コース	地域公共政策	学士(政策科学)
		経済・マネジメントコース	経済・マネジメント	学士(経済学)

C ポリシーとカリキュラムの整合性確保（1）

学部名： ○○学部

教育プログラム名○○学

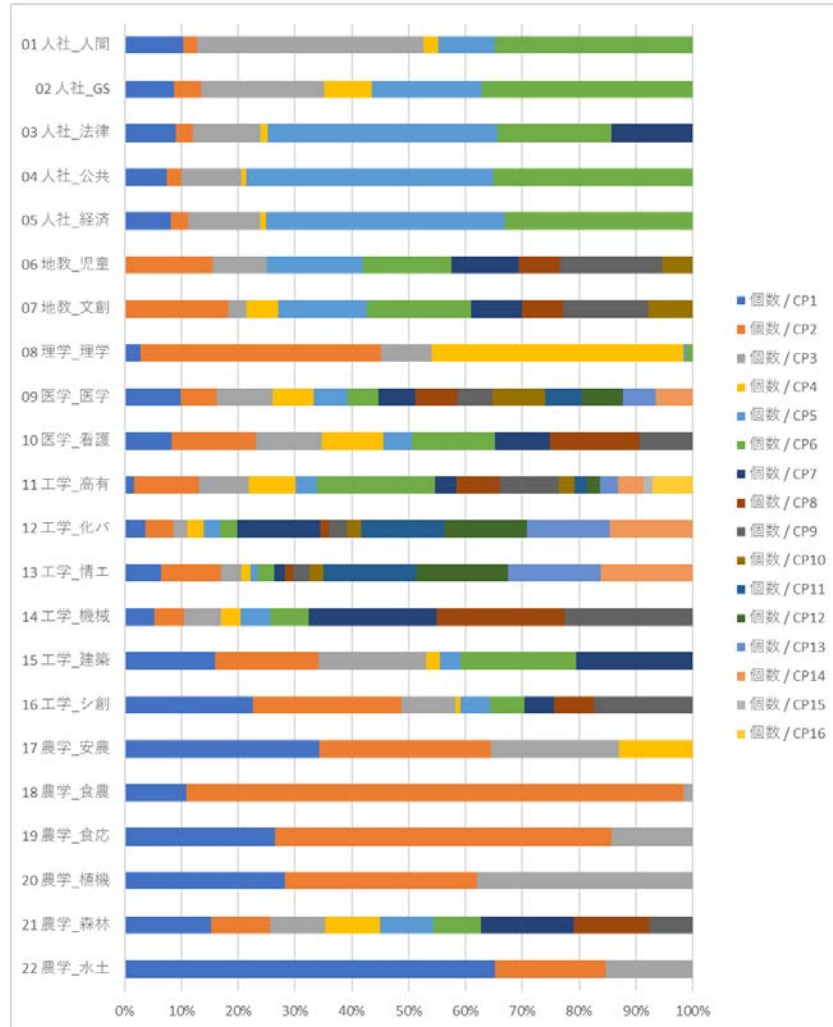
教育課程の編成・実施方針（CP）					カリキュラム				学位授与方針（DP）			
CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	科目名	担当教員	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	...	DPO
	○	○			基礎生命科学	山形太郎 山形花子 他○○教員	医学の基礎知識として必要となる、化学、生物学、物理学及び生化学について、「医学教育における準備教育モデル・コア・カリキュラム」に準じて指導する。	(1) ○○に関する基礎的知識を把握する。 (2) △△に関する問題意識を持つ (3) ◇◇的なものの見方・考え方を身に付ける。	(1) △ (2) ◎ (3) ○			(2) ◎ (3) ○

○ CPと対応している
※ 該当しない場合は空欄

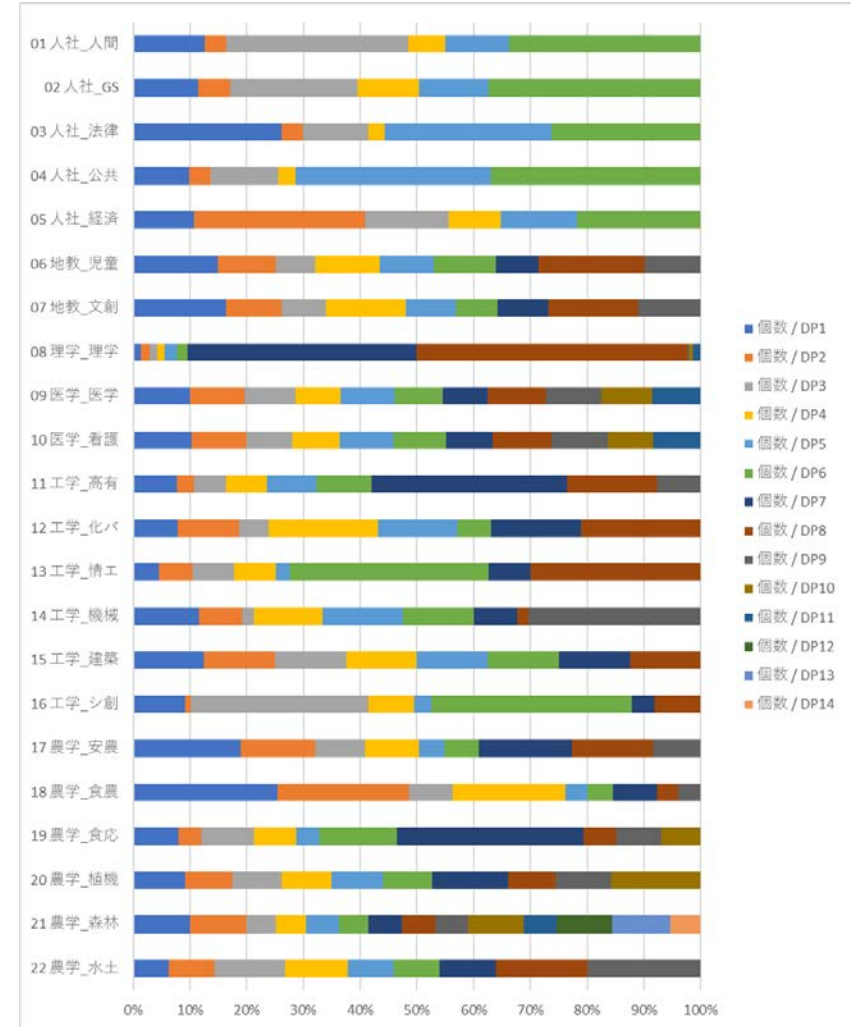
◎ DP達成のために、特に重要な事項
○ DP達成のために、重要な事項
△ DP達成のために、望ましい事項

C ポリシーとカリキュラムの整合性確保（2）

CPとの対応状況



DPとの対応状況

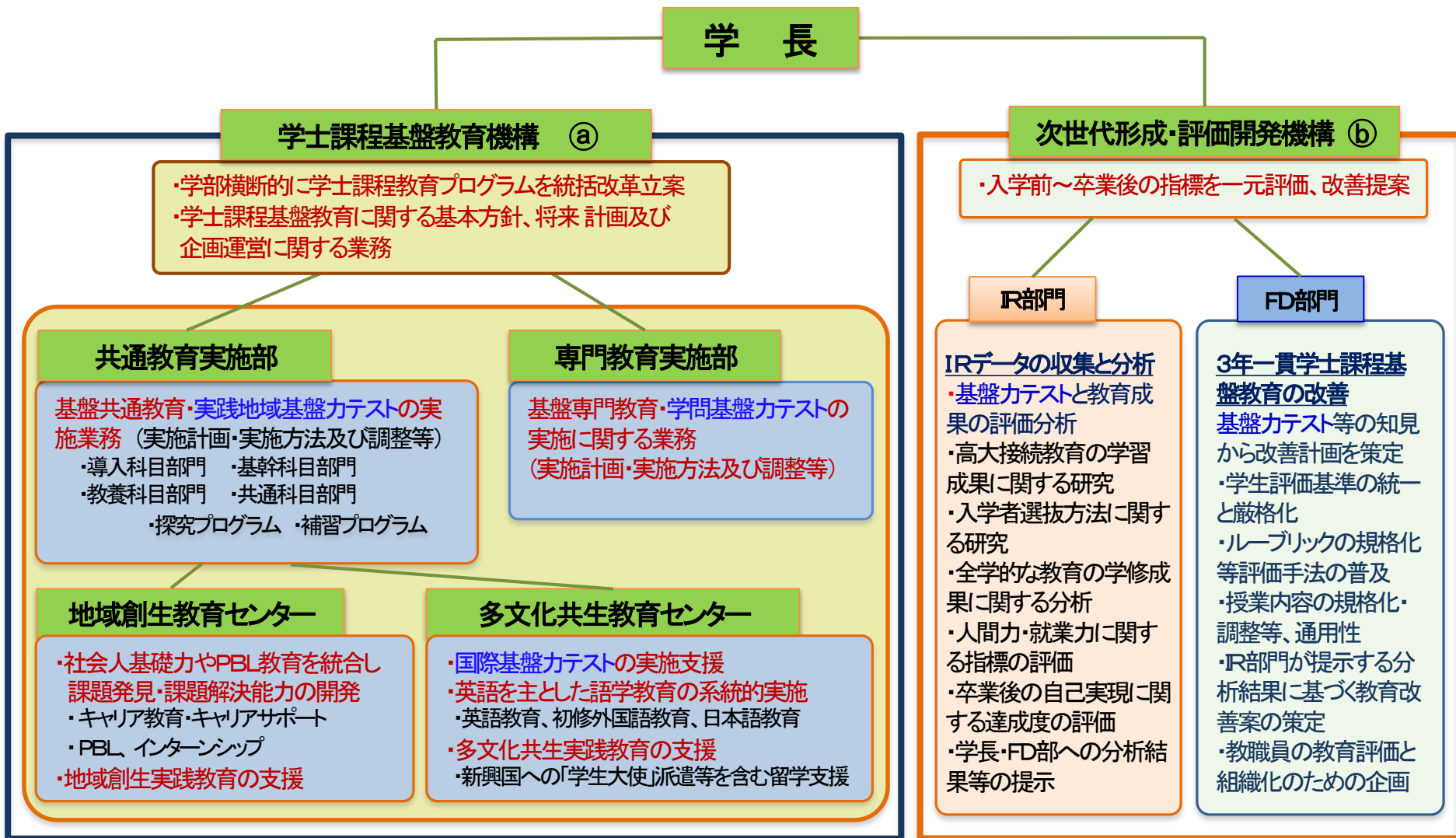


C ポリシーとカリキュラムの整合性確保 (3)

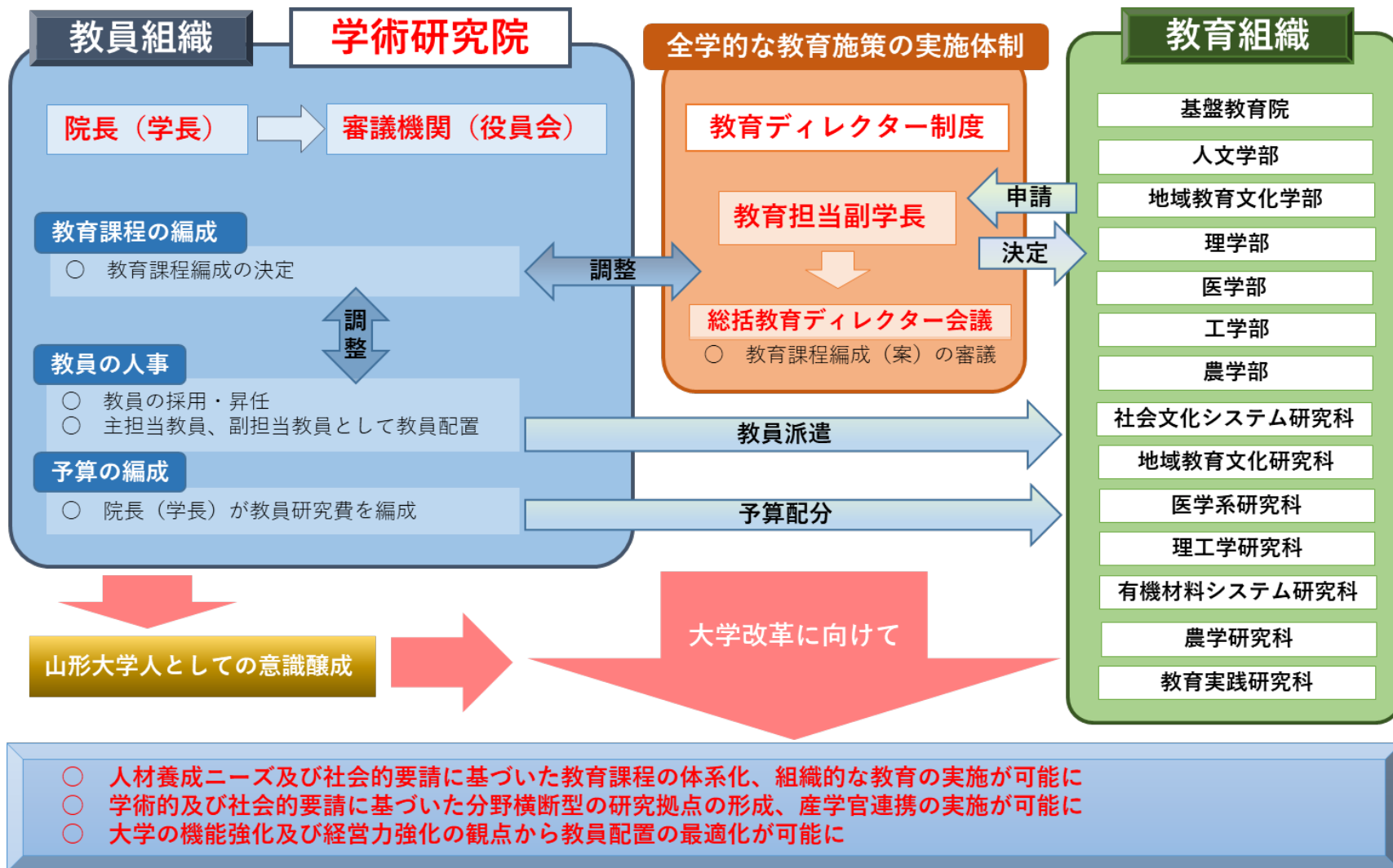
カリキュラムDを例に:

科目名	授業の到達目標	学位授与方針(DP)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
微積分解法	関数と数列の極限、級数の収束・発散についての計算ができる。初等関数(代数関数、三角関数、指数関数、対数関数、双曲線関数)について、合成関数、逆関数の微分の計算ができる。関数のグラフの応用、関数のテーラー展開ができる。置換積分法・部分積分法を用いた積分計算とその応用ができる。							◎ 		
物理化学基礎	物理化学の基本概念を理解する。物質の三態の中で最もよくわかっている気体を例にとり、理想気体、実在気体、気体分子運動論、さらには気体の統一的解釈について適切に理解できるようになる。また、エンタルピーに関する基本的な概念を理解することを目標とする。							◎ 		
物理学基礎	この講義を履修した学生は、(1) 静電磁気学に必要なベクトル解析を用いて、計算や式の変形ができる。(2) 真空中の静電場(電界)に関して、クーロンの法則、点電荷および電気双極子が作る電場を計算できる。(3) ガウスの法則の意味を理解し、電場が計算できる。							◎ 		
有機化学基礎	原子構造、化学結合、共鳴、酸と塩基、立体化学に関する基本的な知識を身につけるとともに、アルカンやシクロアルカンのIUPAC命名法と構造について理解する。							◎ 		
高分子工学	高分子物理学および高分子化学を勉強するために必要な基本的事項を理解すると共に、高分子の構造、物性および化学を学ぶ際にどのような分野の知識が必要になるかを理解する。							◎ 		
微積分解法 [補習]	関数と数列の極限、級数の収束・発散についての計算ができる。初等関数(代数関数、三角関数、指数関数、対数関数、双曲線関数)について、合成関数、逆関数の微分の計算ができる。関数のグラフの応用、関数のテーラー展開ができる。置換積分法・部分積分法を用いた積分計算とその応用ができる。							◎ 		
スキルアップセミナー	1. 機能高分子工学科の特色・目標、および今後の学生生活、研究室での活動、卒業後の進路についてイメージを描けるようになる 2. 研究室見学を通じて情報・資料収集を行い、レポートを作成できるようになる 3. 専門用語の英語を聞き、グローバル化に対応していくため、各自が今後の英語学習について独自の目標を設定できるようになる 4. パワーポイントを作成し発表できるようになる							◎ R		○ R
基礎専門英語	この講義を履修した学生は、(1)高分子科学・工学に関する基本的な用語を身につけることができる。(2)高分子科学・工学に関する概念と基本的な用語を説明することができる。(3)高分子科学・工学に関して基礎的な英語論文・専門書を読解することができる。					◎ R	○ R	△ R		

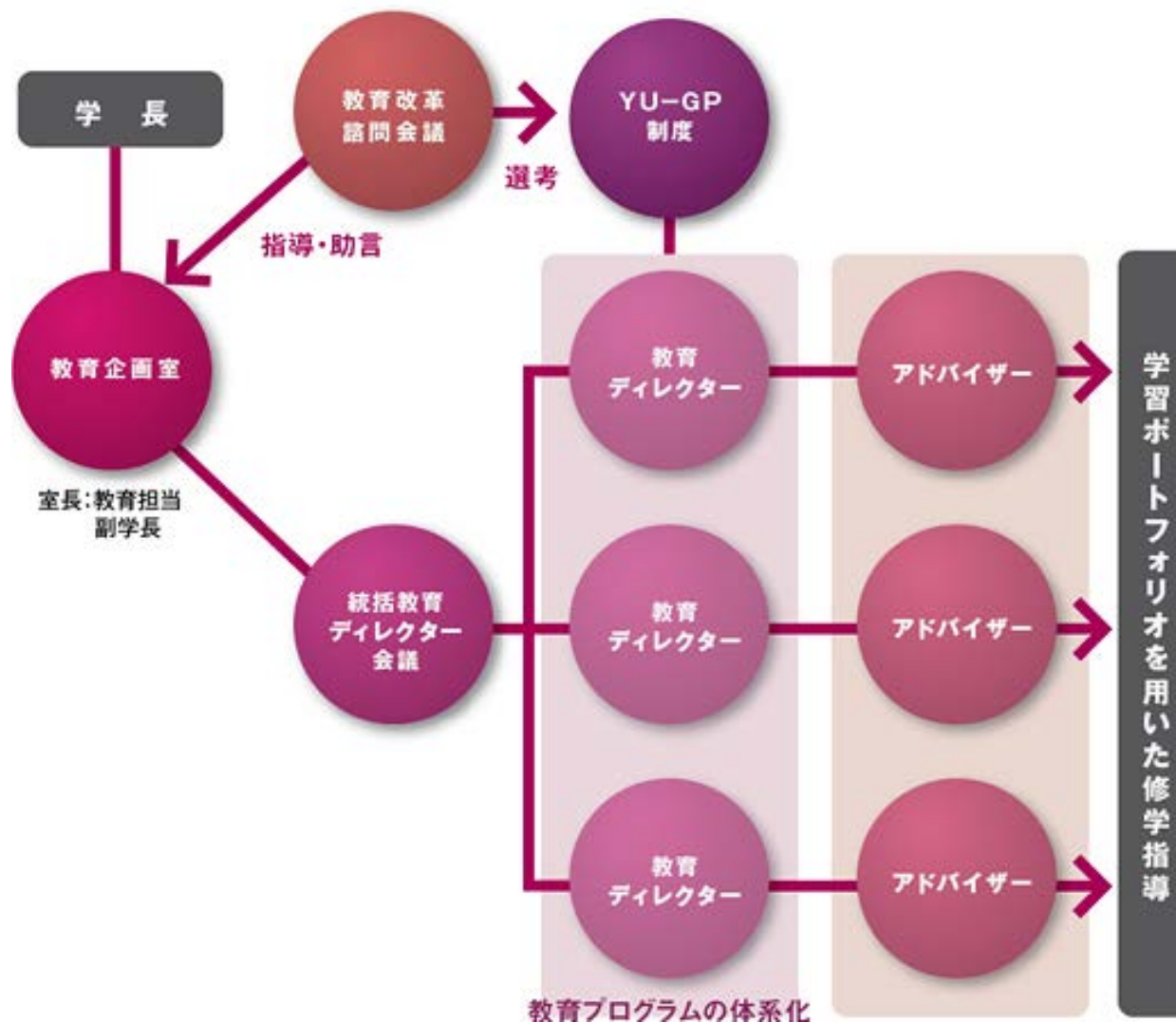
PDCA 教学マネジメント体制



CA 教育プログラムの認定作業の定着



PDA 教育ディレクター制度

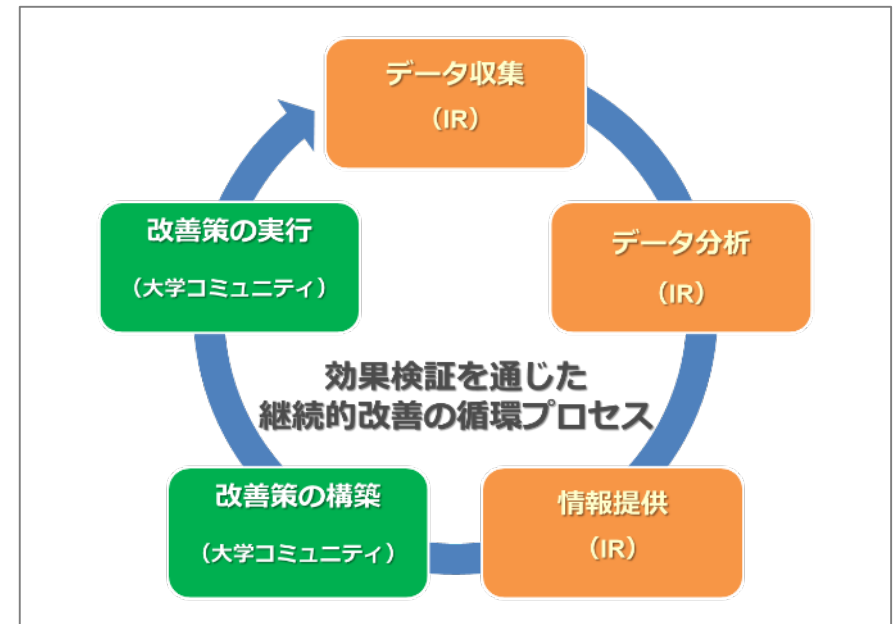


CA 分析、効果検証、継続的改善の支援体制



・IR (Institutional Research)とは客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供等を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること

・IE (Institutional Effectiveness)とはIR機能を活用して効果検証を行い、大学として継続的改善の循環プロセスを実行すること



今後の展望

■ 分析結果の活用

- 入学時、2年始業時の基盤力テストの結果を用いたカリキュラムの点検・評価
- 3年終了時の基盤力テストの開発における基礎情報
- APの成果指標：学生の授業外学習時間、卒業生追跡調査の実施率、基盤力テストの実施率のモニタリングと活用
- 学生へのフィードバック、ディプロマ・サプリメント

■ 質保証

- カリキュラム・マッピング＋基盤力テストの結果を用いたプログラム・レビューによる教育の効果検証
- カリキュラムの体系化と3つのポリシーの実質化
- 継続的改善の循環プロセス(IE)の定着化

参考文献

- 浅野 茂 (2018). 「米国におけるIR/IEの最新動向と日本への示唆」『京都大学高等教育研究開発推進センター』第23号, 97-108.
- 浅野 茂 (2017). 「3つのポリシーの体系化に向けたIRによる支援—山形大学における教育の質保証強化の取組を通じて—」『名古屋高等教育研究』第17号, 177-196.
- 村上宣寛、村上千恵子 (2017)『主要5因子性格検査ハンドブック 三訂版』筑摩書房.
- 千代勝実 (2017)「全学基盤力テストと外部評価による質保証への取り組み～山形大学の例～」,『大学教育と情報』第159号, 32-35.
- 藤原宏司 (2016)「学業を中断する学生の予測モデル構築について」,『大学評価とIR』第5号, 8-22.